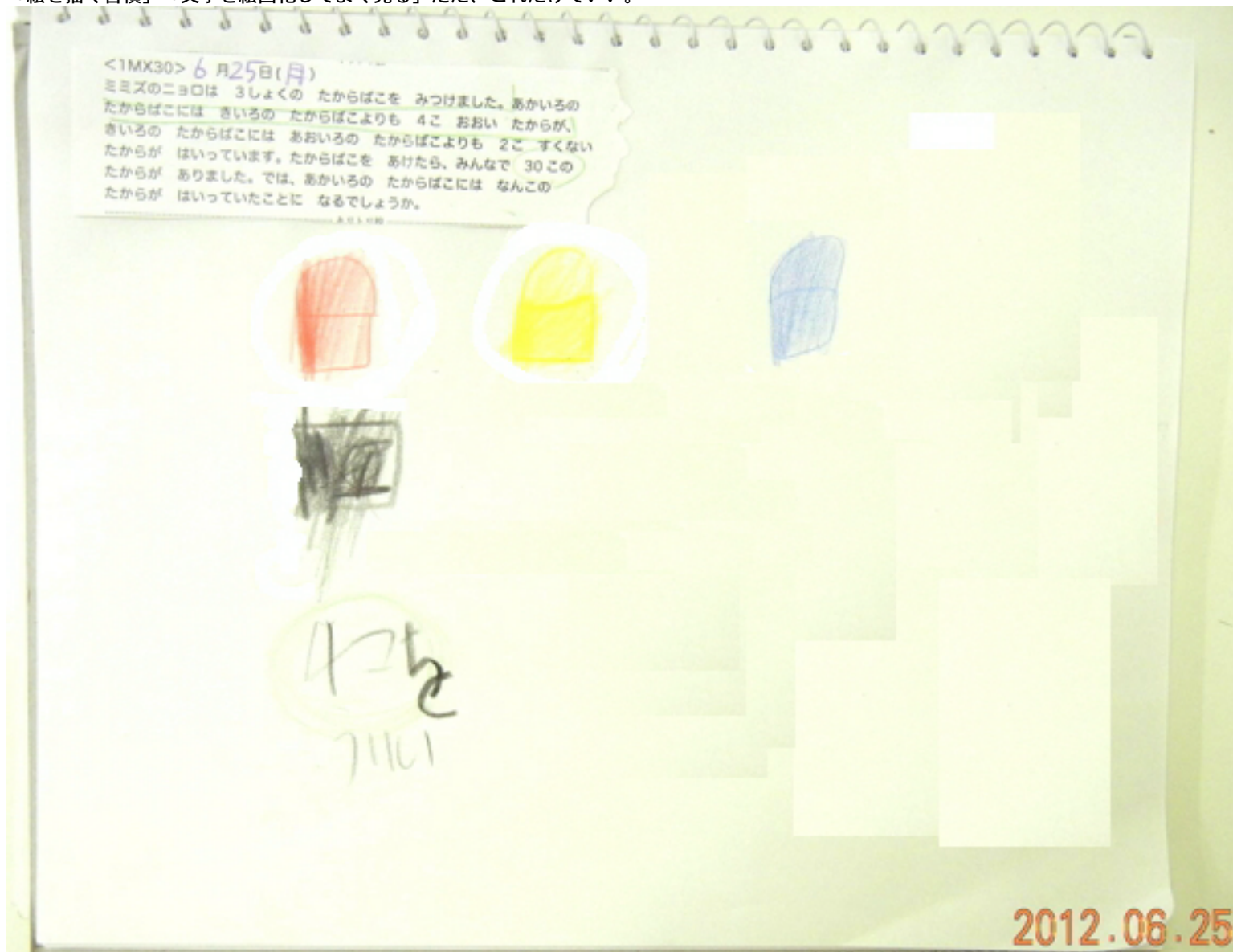


■20120625 in Pocket 「学校でこんな難しいのやってないから...」

●乗り気じゃない様子の子供のセリフである。学校の危機が如実に現れている。このセリフは子供のせいではない。子供は環境適応するだけである。毎日長時間を過ごす環境に適応しているだけである。考えないことを求められれば考えられなくなるのだ。逆に言う「考える環境を作ればそれだけでいい」ということでもある。ところが、今は、学校が子供の意欲をそぎ落とし、考えられる力があるのに、その力を使えなくし、考える方法そのもの（言葉を正確に絵図化して相関関係を捉えながら操作する）をいつまでも教えないがために、公式や解法を暗記して使うコピー学習しかできない子供を大量生産している。学校で難しいことをやる必要はないが、解法を真似させて「できる」と勘違いさせることだけはさせないで欲しい。キチンと「考える術」を教えて欲しい。それだけでいい。そうすれば、「難しいから」なんて言葉は全くでなくなる。正確な絵を描き起こすだけなのだから。「絵を描く習慣」「文字を絵図化してよく見る」ただ、これだけでいい。



- 4個を「4」と書いてはいけません。「■■■■」か「■■■■：4」です。この差が、全ての学力を決定づけます。学校だけで十二分に簡単に1年生からできます。これだけでいいんですから「理解が遅い」とか「書くのが遅い」とか「絵が苦手」なんてのは関係ない。1週間に1絵図で十分なんですよ。シッカリしろよ。



<1MX30>ミミズのニョロは 3しよくの たからばこを みつけました。あかいろの たからばこには きいろの たからばこよりも 4こ おおい たからが、きいろの たからばこには あおいろの たからばこよりも 2こ すくない たからが はいっています。たからばこを あけたら、みんなで 30この たからが ありました。では、あかいろの たからばこには なんこの たからが はいっていたことにな るでしょうか。